

西田昌司 参議院議員  
西田秀俊 本部長

野に下った自民党において、獅子奮迅の活躍を見せる西田昌司参議院議員と、当本部林本部長とが、混沌とした政治情勢の行く末について、英霊の顕彰について、教育の問題について、膝を交え語り合った憂国の対談。

# 特別対談

野に下った自民党において、獅子奮迅の活躍を見せる西田昌司参議院議員と、当本部林本部長とが、混沌とした政治情勢の行く末について、英霊の顕彰について、教育の問題について、膝を交え語り合った憂国の対談。

**西田 昌司**

参議院議員

本部長

秀俊



林

本日は大変お忙しいと  
ころお時間を割いていた  
だきありがとうございます。

西田先生が参議院議員に就任されて四年目を迎えるわけですが、ご就任後は直ちに神道政治連盟国会議員懇談会にご参加をいただき、昨年は幹事にご就任いただき、元おつしやっていたのは、戦後教育は占領政策の下で教育基本法が作られ、日本の伝統文化を教えることが、タブーのようになつていただけた。私も神政連の志と一緒にすることがあると思っており、これらの教育のあり方等についてのお考えなど、この機会にぜひお聞かせ賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

私たちも神道政治連盟京都府本部も、戦後のGHQの指導によって、日本の文化、特に精神的文化などが言論統制によって荒廃してゆくという過程において、日本的心をなんとか取り戻さなくてはいけないということことで結成され、今年で創立四十周年を迎えさせていただきました。西田先生は、参議院議員に出馬される際に「伝えよう、美しい心と国土」「日本の背骨を取り戻そう」というスローガンを掲げていらっしゃいま

ちょうど私が立候補したときが安倍総理でした。その総理が掲げていたのが「戦後レジウムからの脱却」であり、ちょうど私の申し上げていたことと同じでしたので、非常に心強い気持ちで国政に上がったわけです。ところが消えた年金など様々問題が持ち上がりまして、総理をお辞めになつたことはど

ても残念でした。安倍総理がおやりになった最大のことが教育基本法の改正でしたが、この重要さが国民の皆さんに伝わり、理解されたのかどうかがわからないんですね。安倍さんがおつしやっていたのは、戦後教育は占領政策の下で教育基本法が作られ、日本の伝統文化を教えることが、タブーのようになつていただけた。私も神政連の志と一緒にすることがあると思っており、これらの教育のあり方等についてのお考え方など、この機会にぜひお聞かせ賜りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ちょうど私が立候補したときが安倍総理でした。その総理が掲げていたのが「戦後レジウムからの脱却」であり、ちょうど私の申し上げていたことと同じでしたので、非常に心強い気持ちで国政に上

ったが反対したいが為に、年金問題など

という安倍総理には直接関係のない問題で、いわば謀られて倒れたよう

な具合になつてしまつた。

いまの日本が底割れしている原因は何かと云うと、戦争に負けて自分

たちの立ち位置が見えなくなつているんですね。人間というのは、両親があつて、その親にはまた両親がいてという具合に、代々受け継がれてきました。日本の歴史をずっと辿れば何代も続いていて、しかも日本には天皇陛下が居られますよね。そ

の天皇陛下というご存在が伝統の象徴ですね。その祖先が、天照大御神という神話の世界につながり、もつと遡れば地球や宇宙の誕生にまで行き着くということ。つまりそういう神話にまでつながる流れの中で、この國があり、そして現在もなお皇室というかたちで続いているというのは他所にはないことです。こういう大きな存在であるということが、どうもきちっと伝わっていない。



西田

神道政治連盟の皆さん  
は、皇室の崇敬を中心にして  
伝統そのもので、そういう長い歴史  
は「相続」ということで成り立つて  
いるけれど、そのことが日本の  
命や奪い合いで成り立つていて  
はない。歴史的には小さな戦乱はあ  
りましたが、こうした長い伝統は  
脈々と受け継がれてきた誠にありが  
たい環境で育った国なのです。そ  
ういう意味でもこれから教育の柱と  
して考へるべきなんです。宗教教育  
ということもあるかもしれません  
が、その前にあるのは家庭の意識の  
問題だと思いますね。つまり各家庭  
には両親がいてそのまた両親がい  
て・・・という流れがあるわけで  
す。もちろん皇室のように百数十代  
にもわたらなくともいいんだけれ  
ど、少なくとも何代か前の話がわか  
るはずなのに、いまのような核家族  
ではそれすらもわからない。もつと  
いえば、そういう面倒なことを伝え  
るよりも、私たちはこうしてやつて  
きたけれど、子供たちはそれぞれ好  
きなようにすればいい、商売も家も  
継がなくていいとかいうような、  
個々別々な生き方の仕組みを戦後の  
社会は作ってきてしまった。たいへ  
ん

僕も小さな頃に素朴な  
疑問がありまして、日本  
はなぜアメリカと戦争を  
したのだろうかと。アメリカのよう  
な大きくて立派で強い、日本が目標  
として頼りにもしているような国と  
戦争をするなんて、昔の大人たちは  
馬鹿なんじやないかと子供ながらに  
素朴な疑問があつて、母に尋ねたこ  
とがありました。ところが母も「私  
もよくわからないから学校へ行つて  
先生に聞いてみなさい」というんで  
す。ちょうどその当時小学校一年の  
私の担任の先生が戦争に行つていた  
ので、私の疑問を聞いたたら先生は  
「西田君、それは君が大人になつて  
から考えなさい」(笑)といふ  
う作家が書かれた「大東亜戦争肯定  
論」が一番解り易いですけれど、そ  
こでは「東亜百年戦争」というふう  
に理解されています。つまり日本は  
今から百五十年前の一八五三年、ペ  
リーが来て開国しろと言われて、開  
国しなかつたら江戸を攻撃するぞと  
言われて開国となつた。無理矢理こ  
じ開けられて、その後に明治維新と

西田

僕も小さな頃に素朴な  
疑問がありまして、日本  
はなぜアメリカと戦争を  
したのだろうかと。アメリカのよう  
な大きくて立派で強い、日本が目標  
として頼りにもしているような国と  
戦争をするなんて、昔の大人たちは  
馬鹿なんじやないかと子供ながらに  
素朴な疑問があつて、母に尋ねたこ  
とがありました。ところが母も「私  
もよくわからないから学校へ行つて  
先生に聞いてみなさい」というんで  
す。ちょうどその当時小学校一年の  
私の担任の先生が戦争に行つていた  
ので、私の疑問を聞いたたら先生は  
「西田君、それは君が大人になつて  
から考えなさい」(笑)といふ



いちばん大事なことだと思うんで  
す。私の演説会でもよく申し上げま  
すが、結局は「忠」と「孝」に戻つ  
てくることになります。つまり、永  
い繋がりを背負っていくというこ  
と、そこを教育の中で教えていかな  
ければならないと思いますよ。実際  
には教えるというよりも、感じられ  
る話なんですね。

林

なるほど、外国の王室  
を繰り返して来ているわ  
けですが、日本の場合はまったく違  
いますね。京都の御所を見ればわか  
りますように、だれでも攻め込める  
ような街中にあって、しかも、小さ  
な溝や堀だけで囲まれた場所にい  
らっしゃつたわけで、そんな身近な  
場所から私たち国民の生活を見届け

て頂いてきたという、誠にありがた  
いことです。

こうした教育の問題も神政連で  
は重要な基礎事項として位置付け  
ているのですが、あとは英靈顯彰で  
す。靖國問題と英靈顯彰のことを、  
次の世代にしっかりと伝えていかな  
ければならないと思っております。  
遺族会の方々も大変高齢になつてき  
ておりますし、「いま、我々の平和  
がなぜこうしてあるのか」というこ  
とを、後世にしっかりと繋げていか  
ねばならないかと思うわけです。そ  
ういうことで、当本部では戦没者慰  
霊祭を積極的に続けてもらいたい  
のですが、民主党政権に  
なつてからは、靖國神社へ閑僚が誰  
一人参拝しなかつたり、あるいは日  
韓併合百年の首相談話は村山談話・  
河野談話に続くさらに酷い謝罪談  
話であつたりと憂慮すべき有様で  
す。「なぜ、このような戦争が起  
こつたのか」ということを、その時



自分と自分の国の立場も何も無し  
で、今言つては勝つた方、日本  
の国以外の立場で、徹底的に日  
本の近代史が教えられてきたわけ  
です。そうするとなぜ戦争したか  
もわからない、戦争が終わつて負  
けた後になぜこんな言論ばかり  
になつてゐるのかも分からず、ずつ  
と來ているんですね。つまり、日本  
は百五十年前から大きな帝国主義  
の勢力に巻き込まれて自衛の戦い  
をやつたけれど、負けた後はそ  
ういうことも全部忘れてしまつて、敗  
戦国としての占領体制が確立され  
たわけです。この体制を誰がつくつ

たかというと、戦勝国なんですよ。  
しかも一番まずいのは、戦勝国が  
作った体制の中で得をしている日本  
人もたくさんいることです。つま  
り、戦後利得者の体制になつてしま  
つたということですね。そのことを  
をおかしいという人間はすべて排  
除され、言論的には封殺されていくと  
いう仕組みなんですね。ここに問題  
があるのだけれど、そういう体制が  
ずっと正しいものだと、六十年間に  
わたつて言い続けてきたので、なか  
なか解つてももらえない。それどころ  
か反対におまえちょっと右翼と違う  
か・・ということになるでしょ。

なつて、放つておいたら自分の国は  
外国の領土になつてしまふじゃない  
かと富国強兵となつた。もともと  
日本には海外に領土を拡げるとか  
いう意志はなかつたわけで、まさに  
当時の帝国主義勢力に巻き込まれ  
て、自分の国を防衛しようとした  
ら戦争になつた。もともと日本は  
ずっと鎖国していたわけで、そう考  
えるともう少し永い歴史で見な  
きやならんという気になるで  
しょ。それともう一つは、戦争が終  
わつて負けて、その後にあの戦争を  
徹底的に否定する教育をされまし  
たよね。林本部長が言ったように、

代に遡つて、しっかりとと考えなけれ  
ばならないと思うんですね。みんな  
一方的に我々が悪いんだからこ  
な、一方的に我々が悪いんだからこ  
な。やはり歴史を考えるときには  
双方向の、つまり日本の立場、向こう  
の立場という、この双方の立場を考  
えて語らなければいけないと思うの  
ですが、どうもいまは片務的な視点  
でしかモノを語らないというのが現  
状ですね。

西田先生のホームページのビデオ  
レターの中でも、日韓併合百年の首  
相談話が発表されたおりメッセージー<sup>ジ</sup>  
を流していらっしゃいましたが、ここ  
でもういちど西田先生のお考えをお  
聞かせいただけたらと思います。



西田 とくに今の民主党の閣僚たちのやっていること、つまり本当の日本人の利益じゃないんですよ。彼らは無意識のうちであるかもしれません、日本人を完全に裏切って、他所の人のために働いているんですよ。日本自身の首弁者に彼らはなっているんです。

西田 僅たちのやっていること、というのは背信行為だけじゃなくて、戦後利得者の利益、つまり本当の日本人の利益じゃないんですよ。そういうのを守る代弁者に彼らはなっているんです。

西田 そこはもうひとつの大問題があつても、憲法も含めて法律を改正すべきできる問題なんです。



林 戦争にいたれた方は、自分の命を投げ打つて戦い、そこで亡くなつた後は靖國神社に祀られるという気持ちが強かつたと思います。隣設の遊就館に展示してある遺書などを読ませていただき、何か苦しいことがあつたらお父さんは靖國神社で眠つているからここに相談に来なさい、とか書かれていました。そういうものを読めば、新たな追悼施設などは全くの裏切り行為、背信行為なんですね。政治家としてや閣僚などは靖國神社参拝、英靈顕彰、追悼というのが第一の努力じゃないかと思いますね。

林 戦争にいたれた方は、日本のため家族を守るために自分の命を投げ打つて戦い、そうなんですが、戦争を否定し暴力を否定し過去を反省さえしておけば、日本は平和になると教えた体制が如何にでたらめであるのかということが、目の前で次々と起きているわけです。中国は、自分たちの経済力・軍事力が整った瞬間に非常に暴力的な外交圧力をかけてくるという、滅茶苦茶横暴なことをしてきてるわけです。そういうのを見るにつけて、今まで教えられたことが「ああ、我々がたんだな」と解る、そして得をしているのが誰かというと、戦勝国です。日本を敗戦国の価値観の状態に置いておくのが彼らの利益なわけです。けれど問題は、日本人が日本人

西田 でも、ありがたいことにね、尖閣諸島の問題もそうなんですが、戦争を否定し暴力を否定し過去を反省さえしておけば、日本は平和になると教えた体制が如何にでたらめであるのかということが、目の前で次々と起きているわけです。中国は、自分たちの経済力・軍事力が整った瞬間に非常に暴力的な外交圧力をかけてくるという、滅茶苦茶横暴なことをしてきてるわけです。そういうのを見るにつけて、今まで教えられたことが「ああ、我々がたんだな」と解る、そして得をしているのが誰かというと、戦勝国です。日本を敗戦国の価値観の状態に置いておくのが彼らの利益なわけです。けれど問題は、日本人が日本人



かということも摺り合わせて考えてみると、見えなかつたものが見えてくる、そういうことになるんじやないですかね。

だから中国もいいことをやってくれてるな（笑）と。いや、わからせるためにね、そう思つくらいです。

林 子どもたちにも、日本の立場で歴史を語らない。これがいちばん問題でね。だから敵は、中国でも韓国でも北朝鮮でもアメリカでもなく、むしろ我々自身であつて、頭が思考停止になつてしまつて、いることが問題なんです。

さつき私の小学校の時の話の中にもあったように、我々自身が「なんあんな戦争をしたんだろう」と、負けるとわかつて戦争なのにと考えることが大切なのです。そこまでは小学生でもわかるんですよ。でもそこから先は大人にならないとわからぬ。でもなぜしなければならなかつたのか、それは永い歴史の過程といふものがあつて、これは一言では言えないんだけれど、それを一人ひとりが考えていいま現実に起つてることを、いままで教えられてきたことが正しいの

西田 僕は、戦争のことについてもつときちんと議論すべきだと思うんです。外國ならきっとそう言つていますよ。我が国がなぜ戦つたのかということは、どこの国も必ず言つてゐるんですけど、こちらに筋がある話は言つべきなんです。筋道のある話は言つべきなんです。筋道のあることを日本はやつてきたんですね。僕はそう思つてますから、美化と言われても、やっぱりそこは大義名分も含めて言うべきだと思います。だからこ

子どもたちにも、日本の立場で歴史を語らない。これがいちばん問題でね。だから敵は、中国でも韓国でも北朝鮮でもアメリカでもなく、むしろ我々自身であつて、頭が思考停止になつてしまつて、いることが問題なんです。

林 歴史といふものを見つけて、もちろん戦争を美化するような教育は良くないと思ひます。なぜこういうことがあつたのか、ということは伝えるようにしなければいけないと思いますね。

西田 僕は、戦争のことについてもつときちんと議論すべきだと思うんです。外國ならきっとそう言つていますよ。我が国がなぜ戦つたのかということは、どこの国も必ず言つてゐるんですけど、こちらに筋がある話は言つべきなんです。筋道のある話は言つべきなんです。筋道のあることを日本はやつてきたんですね。僕はそう思つてますから、美化と言われても、やっぱりそこは大義名分も含めて言うべきだと思います。だからこ

本日は、私共が次の五十年に向かって、どの様な考え方とともに活動をして、いつたら良いのかということにつきまして、西田先生にこうしてお話を聞かせていただきました。長時間に亘りご指導いただき本当にありがとうございました。

● 対談日 平成二十二年九月二十四日

● 場所 西田昌司京都事務所

※当日は約一時間に亘つて対談いたしました。紙面には全ての内容を掲載できませんので一部編集して掲載させていただきます。

林 本当に難しい問題だと思いますが、神政連の活動の中心は皇室の尊厳護持でありますし、教育問題も憲法改正問題についても早くこれは実現しなければいけないと、大きな事業の柱としてとらえてまいつたわけ

